

平成10年度試験研究成果

区分	普及	題名	性フェロモンを利用したハウス栽培なばなのコナガ防除		
〔要約〕 ハウス栽培なばな（早春どり）におけるコナガ防除対策として、性フェロモン剤の利用と耕種的な防除を組合せることで、薬剤散布は不要である。					
キーワード	なばな	コナガ	性フェロモン剤	生産環境部環境保全研究室	

1. 背景とねらい

最近栽培面積が増加している なばなは、特にコナガの発生が問題となる。コナガは発生期間が長く、一部に薬剤抵抗性が出現していることから難防除害虫の一つとなっており、現状では数回の薬剤防除が実施されている。

一方、なばなは健康野菜のイメージで販売されていることから、消費者の要望に応えるために、化学合成農薬を極力減じた栽培法が求められる。

そこで、ハウス栽培なばなのコナガ防除について、性フェロモン剤（コナガコン）の利用とハウス内への侵入防止対策等を講ずることにより薬剤散布を不要とした。

2. 技術の内容

(1) 育苗中のコナガ寄生防止

ハウス周辺からの飛来侵入を防ぐため、育苗ハウスの開放部分には防虫ネットを張る。育苗箱に網目が2mmの寒冷紗などを覆うことでも良い。

(2) ハウス周辺作物のコナガ防除

ハウス周辺でアブラナ科作物を栽培している場合は、コナガが発生しやすく、なばな栽培ハウスに侵入するおそれがあるので、防除を徹底する。

(3) ハウス内へのコナガ侵入防止

例年、コナガの発生の多いところでは、ハウス内への飛来侵入を防ぐため、定植時（10～11月）までに栽培ハウスの開放部分に防虫ネットを張る。

(4) 交信攪乱用性フェロモン（ダイアモルア剤、商品名：コナガコン）の利用

(ア) 処理方法

本資材（細いポリエチレンチューブ入）を なばな苗の定植時及び残効の切れる3か月後にハウスのパイプ（2m程度の高さ）を活用して畝と平行に張り渡す。列数は、小～中規模ハウス（間口4.5～7.2m）であれば1列とする。この場合、使用量は200～140m/10aとなる。

(イ) 使用上の留意事項

性フェロモン剤は、コナガのオスがメスを確認するのを妨害し交尾を阻害することで、密度増加の抑制を目的とする。このため、フェロモン濃度が低くなると効果が低下するので、ハウスはできるだけ閉じた状態にする。

3. 普及上の留意事項

(1) 本剤のみを利用した場合の経費は、10アール当たり140m、2回処理の場合で25,800円となる。農薬散布の場合は、11,100円（3薬剤分、人件費及び軽油代含む）である。

(2) 本剤ではアブラムシ類（モモアカアブラムシ）の防除はできないので、発生を見つけ次第、寄生した茎は取り除き、野外に出す。。

4. 技術の適用地帯

ハウス栽培なばな（早春どり（収穫時期・1月～3月））作付け地域

5. 当該事項に係る試験研究課題

[生産環境2]-3-(2)-ア フェロモンを利用した害虫防除技術の確立

(イ) 性フェロモンを利用したアブラナ科野菜のコナガの総合防除技術の確立（H8～1

2)

6. 参考文献・資料

技術資料 コナガ交信攪乱剤 コナガコン（サンケイ化学）

平成 7 年度植物防疫年報（岩手県病虫害防除所）